

○沖原タツヨ\* 永吉美穂\*\* 清水哲\*\*\* 田村照子\*\* 酒井豊子\*

(\*放送大 \*\*文化女大 \*\*\*横浜南共済病院)

**目的** 我が国の乳ガン患者数は年々増加の傾向にあるが、女性にとって乳ガン手術後のケア、特にブラジャーや肌着等の適否は日常生活を快適に送る上で極めて重要である。本報告では乳ガン手術後の患部の痛み、身体や皮膚の変化、術部の保護、ブラジャー、人工胸の使用現状等に関するアンケート調査を実施した。

**方法** 調査対象は乳ガン手術経験者で、作成したアンケート用紙を横浜南共済病院ならびに知人を通じて139部配布、このうち100部を回収、回収率は71.9%であった。

**結果** (1)回答者の手術年代は40代が最も多く、50代、60代、30代、70代の順であった。(2)手術部位は左胸が65%、右胸32%、両胸3%であった。皮膚移植経験者の90%は1991年以前に手術を受けており、温存手術経験者の90%は1992年以降の手術者である。(3)切除後は93%の人が何らかの身体的変化を感じ、腕のむくみ、患部が重い、肩凝り、手指に力が入らない等の症状が高率に認められる。(4)患部の痛みは冬、冷房時、季節の変わり目に感じやすい。(5)患部の皮膚異常としては、ひきつれ、かゆみ、むれなどが申告された。(6)使用しているブラジャー等の不都合な点は、①左右のバランスが悪い、②ずれやすい、③切除後の窪みが目立つ、④湿りや蒸れを感じる、⑤ワイヤ、ファスナーが患部に触れ痛い等である。(7)ブラジャーの使用方法としては、ブラジャーのポケットに人工胸、人工胸カバー、汗取りを組み合わせている人が58%に達するが、その他にわた、タオル、ガーゼ等を工夫している例も見られた。